



春

泉山長老
俊朝

京都第一日赤だより



人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

春号

2013年4月発行
vol. 48

Contents

| | |
|----------------------------------|-----|
| 乳腺外科2013 | 2,3 |
| リウマチ・膠原病センター 開設 | 4 |
| リハビリテーション地域連携 | 5 |
| 感染防止共同カンファレンスの開催について | 6 |
| 京都第一赤十字病院新棟見学会 (地区医師会)を実施しました | 7 |

今年の桜の開花は例年より早く訪れました。ネット上では桜前線情報は言うに及ばず、「いかに日本人が桜好きか」とか「なぜ日本人は桜が好きなのか」といった書き込みも多数あることに驚かされます。「ねがはくは花の下にて春死なん そのきさらぎのもち月の頃」と最後を彩る花として詠んだのは西行でした。

さて、その桜の満開の下、新年度を迎えました。今年は診療報酬改定のない年で少し緊迫感が希薄な気がします。当院にとっては管理棟建設工事を粛々と継続し、秋には新しいバージョンの病院機能評価

を受審する大切な年です。ハード面で改築整備を進めて行くと同時に、地域医療連携を軸としたソフト面の充実が当院の病院機能をさらに高めるためには重要であると考えています。

新しく迎えた新入職員117名の若い力を内に取り込み、さらにパワーアップを図って行きたいと考えています。連携医療機関の皆さまには、今年度も宜しくお願い申し上げます。

乳腺外科 2013

部長 李 哲柱

医師として乳がん患者さんと関わりはじめ31年、また京都第一赤十字病院で乳腺を担当し早21年が過ぎました。私はこの間、約三千人近くの乳癌患者さんを診てまいりました。当院に赴任してからは、人道と奉仕の精神という日本赤十字社の基本理念に基づき、診断・手術・化学療法そして緩和医療を含めたトータルケアを目指し診療に従事してきました。

近年の乳癌診療の進歩は著しく、旧態然とした体制や考え方ではいわゆる標準的医療さえ提供できない時代になりました。中途半端な医療しか受けられず、がん難民となって当院に来院する患者さんを見るにつけ心が痛みます。また一方、昨年当院でも新棟が完成し設備も更新されましたが、それだけで良い医療が提供できるわけではありません。「医療を行うのは人であることを忘れてはいけません。」このような状況の中でこそ、最新*最良の医療を提供することが我々の使命と感じております。

当院乳腺外科では、昨年度より診断部門のエキスパート小谷医師が、そして乳房再建を含め整容性を重視した手術の強化のため形成外科出身の張医師が新メンバーとして加わり、またデリケートな女性心理を理解できる女医の柏谷医師と共にスタッフ全員が、患者さんに最新*最良の乳癌治療を提供できるよう日々研鑽しております。また乳腺外科医ばかりでなく、放射線科など他科の医師・看護師・薬剤師・相談員等が協力し日常診療に取り組んでおります。

新メンバーの自己紹介とそれぞれの抱負

小谷達也 副部長

平成24年4月からお世話になっております。これまでは済生会京都府病院外科で約15年間、乳癌検診・診療に従事しておりました。以前より近隣医師会の先生方との連携を重視し、協力して乳癌診療にあたってまいりました。今後も病診連携を主眼に置いて頑張りますので何卒宜しくお願いいたします。



前列左から小谷副部長、李部長、張医師、柏谷医師

張 弘富 医長

昨年4月より、こちらに参りました。もともと京都大学の形成外科学講座の出身ですので、その知識を活かした整容性に優れた手術や乳房再建手術、また乳癌患者の心のケアにも取り組んでいきたいと思っています。

柏谷晶子 医師

男性医師に言いにくいことがあったら、精いっぱい診させていただきますのでよろしくお願いします。

外来 李=月・木、小谷=水・金、張=月・火・第2木午後(乳房再建外来)、柏谷=木

医療設備 MRI、CT、各種シンチグラフィ、リニアック、超音波、(エラストグラフィ、マイクロピュア、造影超音波)、マンモグラフィ、センチネルリンパ節生検(蛍光色素・RI)、吸引式針生検装置その他

今年度の主なイベント

- | | |
|-----------|---------------------------------------|
| 4月13日(土) | 第8回乳がん診療Meeting in Kyoto (ホテルグランピア京都) |
| 6月14日(金) | 外来化学療法懇話会(京都大学 芝蘭会館) |
| 7月6日(土) | 市民公開講座(池坊短期大学 ころろホール) |
| 9月未定 | 京都乳癌座談会 |
| 10月19日(土) | 第12回乳腺フォーラム(京都第一赤十字病院大会議室) |
| 11月8日(金) | 乳がん学習会(京都第一赤十字病院大会議室) |

リウマチ・膠原病センター 開設

— 京都府南部のリウマチ性疾患診療の中核として —

2012年10月、京都第一赤十字病院に、京都府南部の病院としては初めて「リウマチ・膠原病センター」が開設されました。メンバー構成は表のようになっており、従来は各科ばらばらで行ってきた関節リウマチや膠原病・免疫疾患の診療を、各科の連携をより強めて診療体制を整備するとともに病診連携や患者教育についても協力して総合的に進めていきたいと考えています。



| 職名 | 氏名(専門領域) | | |
|--------------|---------------------|----------------|-----------------|
| センター長 | 福田 互 (リウマチ内科) | | |
| 副センター長 | 山添 勝一 (整形外科) | | |
| 医 師 | 尾本 篤史 (総合内科) | 角谷 昌俊 (リウマチ内科) | 井戸 亜希子 (リウマチ内科) |
| | 奥村 弥 (整形外科) | 井上 敦夫 (整形外科) | 杉谷 和哉 (整形外科) |
| | 栗林 正明 (整形外科) | 澤村 和秀 (整形外科) | |
| | 平岡 範也 (呼吸器内科) | 永田 誠 (皮膚科) | 中山 雅由花 (腎臓内科) |
| | 相坂 ゆう (リハビリテーション科部) | | |
| 理学療法士 看護師 | 河野 智子 | 加藤 明子 | 楠山 月子 |

力を結集して難病を克服する

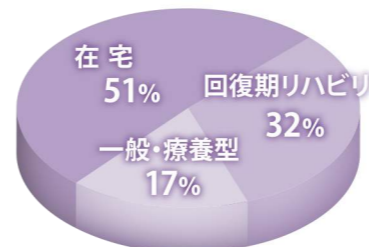
関節リウマチは長い間「難病」といわれ、多くの患者さんを苦しめてきました。しかし現在、その治療成績は、内科的な薬物療法による疾患活動性コントロールと整形外科的な手術療法や理学療法による機能改善を車の両輪として、著しく向上しています。また、関節リウマチよりも頻度は少ないものの膠原病(結合織疾患)とその類縁疾患は、関節炎の鑑別診断として重要であるとともに、その症状が多岐にわたり、やはり「難病」として恐れられてきました。最近では、皮膚・呼吸器・腎臓などの専門医が力をあわせることで、血管炎・IgG4関連疾患などをふくめて複雑な病態の解明が進み、治療成績の向上が期待されています。いまや、リウマチ膠原病診療には、免疫(リウマチ)内科を核として多くの診療科が、その力を結集してあたることが求められています。

糖尿病内分泌リウマチ内科 部長 福田 互

地域連携 リハビリテーション

Regional cooperation

図1 当院における
脳血管疾患入院患者の転帰先



平成24年度近畿厚生局定時報告より

表1 当院における
地域連携バス稼働状況

| 対象バス | 大腿骨 近位部骨折 | 脳卒中 |
|--------|--------------|-------|
| 総患者数 | 126 | 405 |
| バス数 | 79 | 82 |
| バス率 | 62% | 20% |
| 平均在院日数 | 26.7日 | 29.5日 |

平成24年度近畿厚生局定時報告より

昨 今の診療報酬の改訂のなかで、病院の機能分化が図られています。当院はDPCⅡ群病院として超急性期病院の役割を維持することが求められています。そのため、急性期治療と並行して退院に向けた評価を行い、継続的にリハビリが必要な対象患者に回復期リハビリテーション病院を紹介しています。特に、脳血管疾患の場合、約1/3もの患者が回復期リハビリテーション病院へ転院されています(図1)。また、京都府地域連携パス(脳卒中、大腿骨近位部骨折)に計画管理病院として参加し、連携病院の協力のもと高いパス稼働率と短い平均在院日数を維持しています(表1)。

2000年の発足以降、京都府内でも回復期リハビリテーション病院ベッド数が増加傾向にあります。また、平成24年4月の診療報酬改定で回復期リハビリテーション病院に「新1」基準が創設され、より急性期の患者の受け入れや、より重度の患者の受け入れが評価されるようになりました。さらに、高齢世帯や単身世帯の増加に拍車がかかるなかで、回復期リハビリテーション病院との更に密なる連携、フィードバックが重要になると考えられます。

医療社会事業課 医療ソーシャルワーカー 辻井 幸彦

地 域医療リハビリテーション連携の一環として、当院と京都大原記念病院とで症例検討会を平成25年1月22日に開催いたしました。

提示された症例は、当院で脳卒中急性期を過ごされ、回復期リハビリテーションを京都大原記念病院で受けられた若年の脳出血の患者様です。当院入院は意識障害があり、立つのが精一杯の状態でした。転院後、症例報告会の時点では、前頭葉機能障害があるものの、促せば日常生活動作は自力で可能になりつつあり、走ることもできるとのご報告でした。

私たちは急性期病院のセラピストとして、患者様の長期的機能予後を考えて日々リハビリテーションを行っています。しかし、転院後の患者様の状態や回復期セラピストと意見を交わす機会は殆どなく、今回は貴重な経験となりました。今後セラピスト間での情報交換を更に深めていければよいと思います。

リハビリテーション科 理学療法士 奥野 悦子



感染防止共同カンファレンスの開催について

感染制御部 部長 大野 聖子

場所 京都第一赤十字病院 南4階 大会議室 **時間** 18時～20時
対象 病院の感染対策担当者（医師・看護師・薬剤師・検査技師等）
 診療所の医療従事者 2012年度



| 日程 | テーマ | 医療機関数 | 参加人数 |
|----------|-------------|-------|------|
| 6月7日(木) | MRSA感染症 | 27 | 77 |
| 9月6日(木) | その他の多剤耐性菌対策 | 15 | 53 |
| 12月6日(木) | HIV感染症 | 13 | 49 |
| 3月7日(木) | 結核 | 14 | 47 |

2012年度の診療報酬改定に伴い、感染対策加算が新設されました。そしてその条件として、感染対策加算1を算定の病院は、加算2を算定の病院と年4回以上の共同カンファレンスの開催が義務づけられました。当院は加算1を算定し、連携を組む、加算2算定の病院を募集したところ、9病院からお申し出がありました。さらにこの機会に、加算算定は難しいけれど、当院と常に医療連携がある医療機関の皆様にも、カンファレンスへの参加をご案内したところ、第一回目には27医療機関、77名の医療従事者の方々にお集まりいただきました。カンファレンスのテーマと参加状況を表に示します。

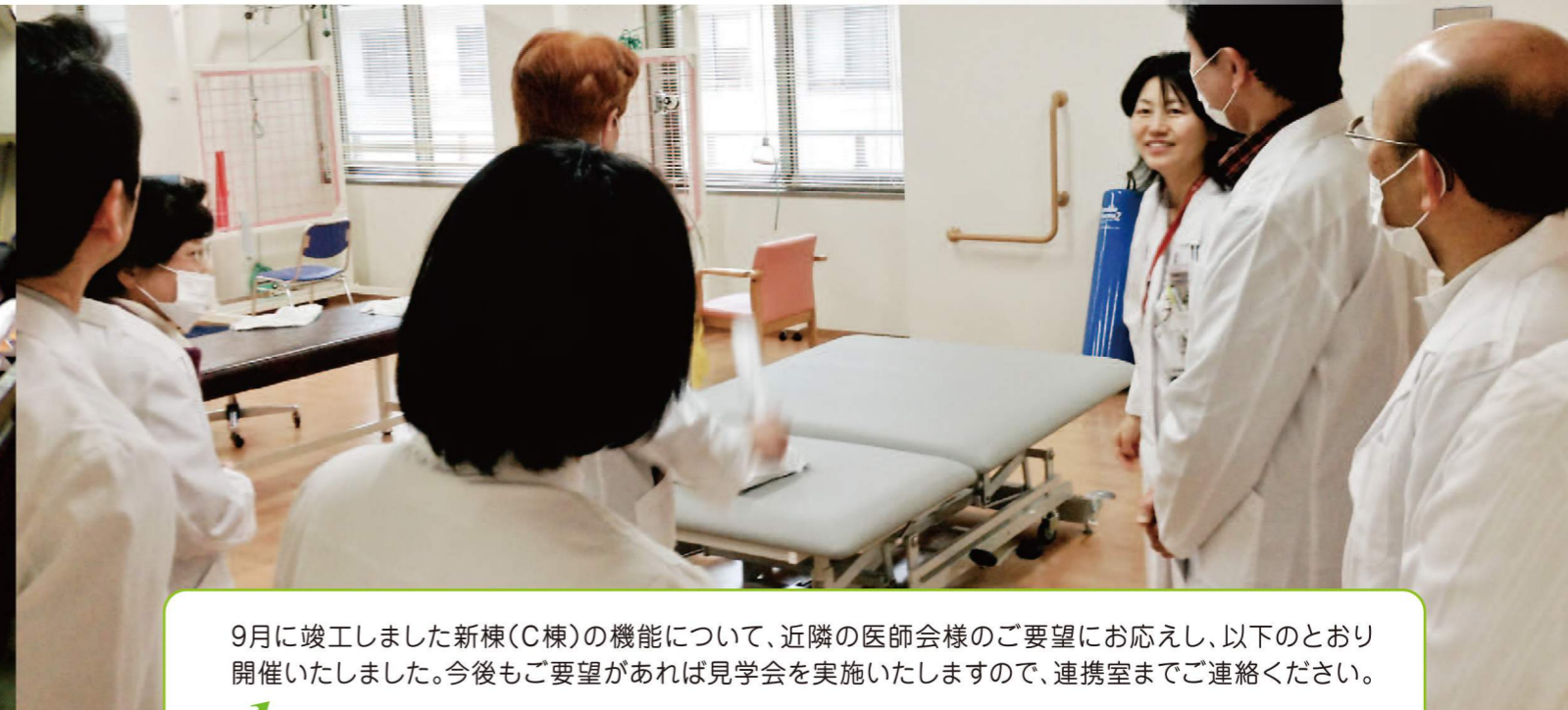


当院ではカンファレンス毎にテーマを設定し、まず当院のICTのメンバーから、現在の状況と今後の対応についてお話しし、その後はお互いの病院での問題点について、交流会で話し合うという形としました。初回の交流会は病院毎のグループ分けとしましたが、第二回目からは職種ごとに変えて開催しました。全体会では出しにくかった、質問が交流会の小グループでは出すことができたのではないかと考えています。

医療関連感染防止におきましては、近年、耐性菌に対しての地域ぐるみの対策が重要になって来ております。そのような中、今回の診療報酬改定は、感染対策において、追い風となると喜んでおります。

2013年度はテーマをもう少し、具体的なものとし、カンファレンスを開催したいと考えております。当院の感染防止カンファレンスは基本的にはすべての医療機関にオープンで行っております。多くの医療機関からのご参加お待ちしております。

京都第一赤十字病院新棟見学会（地区医師会）を実施しました



9月に竣工しました新棟(C棟)の機能について、近隣の医師会様のご要望にお応えし、以下のとおり開催いたしました。今後ご要望があれば見学会を実施いたしますので、連携室までご連絡ください。

- 1 対象** ①下京西部医師会並びに下京東部医師会(合同開催) ②東山医師会
- 2 参加者数** ①18名 ②12名
- 3 見学場所** 新患受付・検査部門(血液、X線、心電図等)・地域医療連携室・健診部
X線大型機器(CT,MRI,Angio,)C2病棟・透析センター
リハビリテーション科・C4感染病床(空室)・C5(プレールーム)・食堂

京都第一赤十字病院地域医療支援病院運営委員会の設置について

平成24年度より地域医療支援病院として更なる地域医療連携推進のため、有識者を含めた委員会を新たに設置し、地域医療連携にかかる様々な協議を実施いたしました。

今後も定期的に本委員会を開催し、地域医療支援病院として更なる向上を進めてまいります。

[委員一覧]

平成25年3月現在

- 京都第一赤十字病院
 - 院長 依田 建吾
 - 副院長 河野 義雄
 - 副院長 池田 栄人
 - 副院長 吉田 憲正
 - 事務部長 浅田 良純
 - 看護部長 中野 玲子
- 院外有識者
 - 東山医師会長 名和 正訓(名和医院院長)
 - 下京西部医師会長 山下 琢(山下医院院長)
 - 下京東部医師会長 中西 重雄(中西医院院長)
 - 京都府歯科医師会東山支部長 佐藤 雅之(佐藤歯科医院院長)
 - 東山消防署 宮下 聡(警防課長)
 - 洛東地域包括支援センター 河原 祥代(センター長)
 - 連携病院代表 久野 成人(久野病院 理事長)
 - 大内 孝雄(大島病院 病院長)

連携室だより

巻末コラム 26

ようやく本格的な花の季節がやって参りました。

不順な気候の中で、年末から年度末にかけて体調を崩される患者さまが多かったと存じますが、救急対応・外来からの対応では、入院ベッドの確保の難しい日も多かったため、多大なご迷惑をおかけいたしました。高機能急性期病院としての使命を果たすために、今後も尽力していく所存ですので、何卒ご容赦の程、よろしくお願い申し上げます。

私たちは、新しい建物で、地域の医療ニーズに対応すべく、日々研鑽を行っております。

『絆』本号の特集では、乳腺外科から乳房再建術を、また糖尿病・内分泌・リウマチ科からは、リウマチ・膠

原病センターのご紹介を、感染制御部からは感染防止共同カンファレンスの報告、リハビリテーション科からはリハビリテーション地域連携についての報告などを掲載させていただいております。各科への患者さまのご紹介をお願いいたします。

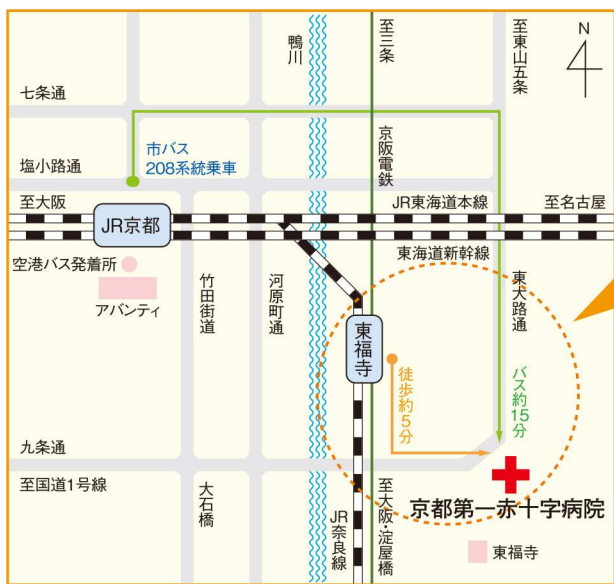
先生方には新棟の内覧会の折など、お会いさせていただきました。今後は、お気軽に先生方にお越しいただけますよう、当院も努力してまいりますので、どうかよろしくお願い致します。

今年度の病診連携懇話会は、7月6日(土)16時からハイアットリージェンシー京都において開催を予定しております。皆様にお会いできますこと、楽しみにお待ちしております。

地域医療連携室

Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202、207、208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】… 京都南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東(右折)へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】… 国道1号線を西進、東山五条交差点を南(左折)へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】… 竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東(左折)へ九条通りを約500メートル

京都第一赤十字病院

京都市東山区本町15-749 TEL.075-561-1121

地域医療連携室 【直通】TEL.075-533-1280
 FAX.075-533-1282